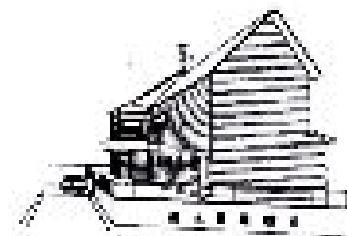


<今朝の聖書から> 誰もが知っているように、ルカによる福音書とマタイによる福音書には、イエス様の誕生の記録が残されています。登場する羊飼いたちや博士たちは、それが来るべき救い主であることが分かりました。聖書にはただ“出会った”とあるだけですが、探し当てて見出し、主と崇めました。今年のクリスマスでは、この“出会った”ということに焦点を置いて聖書を読み進めてきました。去年は、羊飼いや博士たちも、“変えられた”ということに焦点を置きましたが、私たちもみな、主に出合った時、そのことが分かり、住んでいるところは同じでも、また元の所に帰っても、“道を変えて”進み行くことになったのです。救い主にする道でした。“別の道 = 神様と歩む道”を忘れないでいましょう。ここにもう二人、主を待ち望んでいた人の記録が残されています。まずシメオンです。彼にも分かっていることがありました。“主のつかわす救主に会うまでは死ぬことはない、聖霊の示しを受けていた”と2:26 にあります。まぎれもない事実として、約束としてこの人には分かっていた。“何故わかっていたのか？”とシメオンに聞いても、それ以上の説明はできなかつたでしょう。神様との係わりの中で分かっていたのです。私たちだって“神様が私たちの重荷を担って下さっていること、問題を解決し、救われた”と知っている人に“それはどうしてですか？”と質問しても“本当に”という答えしか返ってこないのと同じです。シメオンは祭司でした。29 から 35 節は、讃歌として、教会音楽の中にも幾度となく取り入れられた“歌”です。しかし、“出会ったので安らかに死ぬことができます”という中身が、信仰を表す言葉になっているのです。正しい人が、年老いても待ち望む、とても素晴らしいことです。もう一人、聖書の中で最も美しい女性の一人に、“また、アセル族のパヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。彼女は非常に年をとっていた。むすめ時代にとついで、七年間だけ夫と共に住み”と記録されているアンナの物語があります。このアンナも年老いていました。シメオンもそうでしたが“待ち望んでいました”短い経歴(36-37 節)が語っているように、幸福ではなかったことが分かります。84 歳になっても彼女は待ち望んでいました。正確には“待ち望む生活をやめませんでした”という方が適切でしょう。主イエスは、このようにして人々にお仕えされることをお始めになりました。今朝の箇所につづいて、時間は 10 年以上経過しますが、“父の家にいる”と宣言されたイエスが、愛するマリヤとヨセフと人々に仕えるために、宮を離れナザレに帰られた出来事につづいています。人に仕え、贖い主となられ、重荷をともに背負って下さる方に感謝を。

週報

2010年 1月 10日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042